

Kyoto Hollywood News 京都ハリウッド通信

元祖特撮イケメンが魅せる 本格時代劇「八丁堀の七人」



時代劇ブームの波に乗ってますます快調の第5シリーズ。仮面ライダーでデビューした元祖特撮イケメンから、必殺仕事人での華麗な仕事人・花屋の政を経て、今やすっかり時代劇俳優の重鎮となりつつある村上弘明の活い演技に時代劇ファンからは絶賛の嵐

一昨年から続く時代劇ブームは未だ衰えを知らず、劇場映画では「座頭市」・「王生義士伝」・「たそがれ清兵衛」などのヒット作、話題作が続いたが、テレビではシリーズものもが堅実な人気を得ている。「水戸黄門」がその好例だが、現在テレビ朝日系で放映中の「八丁堀の七人」（月曜午後7時）も、今

回は5シリーズ目となる人気シリーズだ。片岡鶴太郎、村上弘明主演による、捕物時代劇の決定版として登場したこの作品は、シリーズを重ねることに視聴者の共感を呼び、03年に放送した第4シリーズは平均視聴率が10.3%と、月曜時代劇としては「子連れ狼」に並ぶトップタイを記録。最終回で

弥生（萬田久子）の積極的アタックにタジタジとなりながらもまんざらでもない八兵衛（片岡鶴太郎）、元服した息子に手を焼く久蔵（村上弘明）など、ホームドラマ部分もホットな展開を見せてくれます。期待を裏切らない仕上がりをお楽しみみに」と自信満々。他の出演は山下徹大、おりも政夫、日野陽仁、末吉宏司、岡田翔太、橋真由子、石倉三郎ら。



京都発Vシネ大ヒットシリーズBOX化！ 「くノ一忍法帖」

京都が生んだVシネ界の大ヒットシリーズ、かのトレンドイタ女将・Mがくノ一として大活躍

あの「必殺」がコミックで復活！「必殺仕置長屋」は2月4日創刊「時代活劇」(ホーム社)より連載。第1回は一家80ページ掲載！



「必殺仕置長屋」 京都発の時代劇コミック再開！

時代劇と言えは京都、しかしそれは映画やテレビの話で、コミックはまた別。昨今の時代劇ブームに乗って、コミック界でも時代劇がブームとなり、時代劇専門コミック誌も次々と創刊されている。その中でホーム社より発刊の「時代活劇」に、時代劇コミック界唯一の「京都発」の作品が連載されている。それが小生原作の「必殺仕置長屋」だ。ご存じ「必殺シリーズ」のコミック版で、間次郎が数々の必殺技を駆使して悪人どもを闇に始末する。迫力ある作画を担当するのは木村知夫、要衣装タッチで小生の脚本を見事に劇画化。主人公・鈴木主膳は修行の役立たずな北町同心、しかし異色の顔は凄腕の仕置人、市川龍也の岩鼓、仕掛け職人を操る市太郎、黄金縁が黒くく「仕置長屋」に集い、許せぬ悪を討つ。

テレビでもピッタリと息の合った主演3人。今回の項目は流石のどら息子たちと小兵衛の対決を描く



池波正太郎の至宝をライブ体験 舞台「刺客商売」

時代小説の大家・池波正太郎原作「刺客商売」は藤田まこと主演でドラマ化され、現在も新シリーズが好評放映中（関西テレビ・火曜夜7時。時は江戸中期、名刺客・秋山小兵衛（藤田まこと）は、聖物の息子・大治郎（山口馬木也）の成長を見守りながら、40歳年下のおおる（小林綾子）を女房にして、悠々自適の毎日。原作に惚れ込んだ藤田が直々にドラマ化の企画を持ち込んだ入魂のドラマで、藤田は当初から舞台化を念頭に考えていたという。そしてドラマ化と同時に舞台化を実現。大阪・名古屋で公演を重ね、3月3日より27日まで、東京の明治座での公演が決定した。江戸をよなく愛した池波のお膝下では、初めての「刺客」公演となる舞台に藤田は意欲満々。小兵衛の軽妙洒脱な生き様と鮮やかな剣さばきが、魅惑！

今月の言葉

京樹さんが見事書木賞受賞。本当におめでとうございます。小生はどのような事か新年早々、近年希に見る忙しさ。特に1月は2時間ドラマの脚本に雑誌記事6本、取材1本と仕事が集中。2月から3月にかけては「仕置長屋」の原作にドラマの脚本12本をメインに、やはり雑誌記事を少々。タイトなスケジュールと寒さ故か体調を崩し、1月は19日から月末まで風邪に苦しめられる事に、38度の熱が注射や点滴の甲斐もなく延々と続き難儀。

2004年3月1日 山田誠二

責任編集人 山田誠二

1963年生まれ。京都を拠点に、映画のプロデュース、脚本、評論の他、コミック原作など多方面で活躍の作家。映画関連著作多数執筆。

トピックス 山田洋次監督 時代劇に再挑戦

02年度の日本アカデミー賞は部門手本賞初演「ゴキウ」で、山田洋次監督が、時代劇「徳川おんな侍」を監督し、再び時代劇に挑戦。山田洋次監督の時代劇は、かつては「徳川おんな侍」が代表作として知られていたが、近年は「徳川おんな侍」の続編「徳川おんな侍2」や「徳川おんな侍3」などがヒットしている。山田洋次監督は、時代劇に再び挑戦し、新たな名作を生み出すことを目指している。